

第 1 期校の学校像の具体化について

1. グローバルハイスクール（県東部 1 校）

(1) 実施方針の内容

目指すべき学校像	主たる教育内容		規模	様々なタイプの学校・学科等との親和性			
	スタンダード	その他		中高一貫	国際バカロレア	外国人特別枠	全国募集
<p>○グローバルな視野・創造力とふるさとへの理解 グローバルな視点と創造力を持って、国内外で活躍できる力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語力の向上、国際感覚の醸成を図る教育課程を編成 海外進学も含めた進路選択に対応できる教育課程を編成 ふるさとの理解を深め、郷土への愛着や誇りを醸成 	○	グローバル	中規模	○	○		

《教育内容（グローバル）》

ねらい	特色ある取組み(例)
<p>ふるさとや日本のことを深く理解した上で、外国の異なる文化や多様な価値観を尊重でき、高いコミュニケーション力を備えた国内外で活躍できる人材を育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動を通して、我が国の自然や歴史・文化について学びを深め、郷土への愛着や誇りを醸成 <p>【英語力の向上・国際感覚の醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> A L T（外国語指導助手）の複数配置 短期海外研修の実施 海外の連携校とのオンライン交流 英語以外の外国語の選択履修（希望者） <p>【海外進学も含めた進路選択（国際バカロレア認定校等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人教師（講師）の配置 海外の学校との英語でのオンライン探究活動発表会の実施 英語による数学や理科などの授業の実施 交換留学制度の推進（短期留学を授業の一環として実施など）

《国際バカロレア認定校》


- まずは、「グローバル」に重点を置く学校を設置し、その取組みを検証しながら、認定校のニーズや効果を整理し、導入の必要性等の議論を重ねる。
- 設置する場合は、教育内容として「スタンダード」と「グローバル」などを組み合わせ、県東部での設置を基本とし、中高一貫教育校の検討も行う。

(2) 第1期校の具体像(案)

- ・グローバルハイスクールは、設置後に、その取組みを検証しながら、国際バカロレア認定校のニーズや効果を整理していくため、探究的な学びを通し、我が国や地域の自然や歴史・文化について学びを深めるとともに、国際感覚の醸成を図る学校とする。
- ・このため、①探究的な学び、②外国語教育、③将来、国際バカロレア認定校となる可能性、の視点から具体像を描く。

「第1期に設置するグローバルハイスクールの具体像」

具体化の視点
①探究的な学び
②外国語教育
③将来、国際バカロレア認定校となる可能性




世界につながる思考力・発信力を磨く学校

《身に付けられる資質や能力》

- ・国際社会で活躍できる課題解決力や探究的思考力
- ・地域社会や日本について自らの考えを論理的に構築し、世界に発信できる力
- ・多様性を尊重し、対話を通して新たな価値を創造できる力

《取組み例》 ※今後の各校の学校づくりの検討の中で更に具体化していく

- 探究的手法による学び
 - ・各教科・科目において教科等横断的な学びを取り入れるとともに、国際問題、環境、科学技術、多文化共生、地域課題などをテーマに探究活動を行う。
- 英語運用力を伸ばす学び
 - ・英語の授業において、生成AIも活用し、英語ディベート、英語プレゼンテーション、エッセイライティング、英会話など、自分の意見を英語で表現する活動を重視する。
- 異文化理解につながる学び
 - ・世界の歴史・宗教・文化や人々の多様な価値観を学び、国際社会への理解を深める。
- 英語実践力・発信力を育成する学び
 - ・外国人教師の複数配置、オンラインによる海外の学校との継続的な交流や合同授業、短期海外研修などにより、世界に開かれた学びを实践する。
 - ・英語による海外の学校との課題解決型プロジェクト、理科の実験レポートの英文作成等、実践的に英語で発信する機会を創出する。



2. 未来探求ハイスクール（東西各2校）

(1) 実施方針の内容

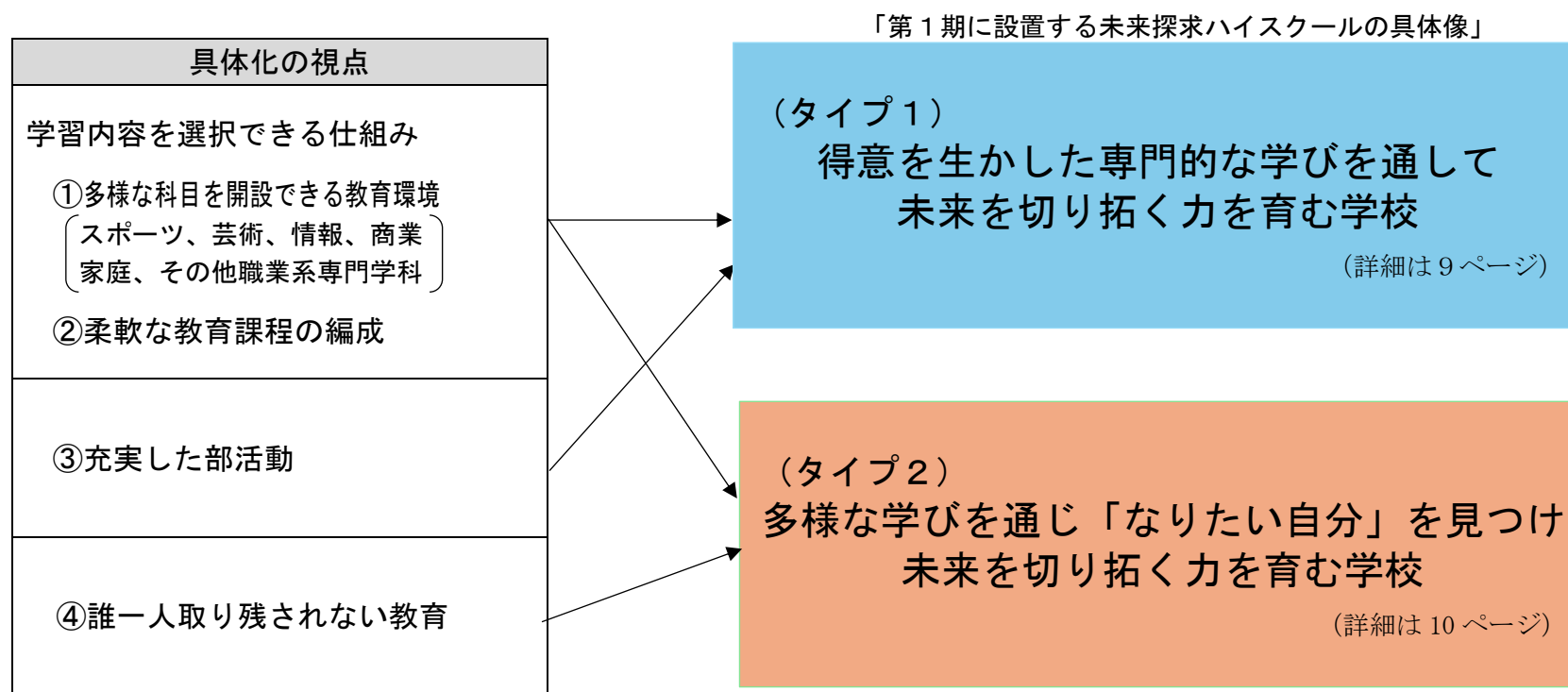
目指すべき学校像	主たる教育内容		規模	様々なタイプの学校・学科等との親和性			
	スタンダード	その他		中高一貫	国際バカレア	外国人特別枠	全国募集
<p>○専門的な学びの追求と多様な価値観との出会い 興味関心が異なる仲間と共に学ぶことで、自分も他者も尊重する姿勢を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定分野の専門科目を重点的に学ぶコースや学科を開設 ・ 異なるコースや学科による連携活動や生徒の交流を促進 ・ 柔軟な教育課程の編成による生徒の主体的な活動を充実（学校行事、ボランティア活動、部活動など） ・ 外国人生徒に係る特別入学枠の設定や基礎学力の定着を図る学び直しを実施 	○	次のいずれかの組合せ 未来創造 【i：スポーツ】 【ii：芸術】 【iii：情報】 【iv：商業】 【v：家庭】 エンパワーメント 職業系専門学科	中規模・小規模			○	○

《教育内容（未来創造）》

ねらい		特色ある取組み(例)
i	運動や健康づくりの実践・理解を通して、将来のスポーツ振興に貢献するアスリートやヘルスケア産業を担う人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性の高い教員や外部指導員による「深い学び」を実践 ・ 生徒の運営による地域公開イベントを開催（ダンスなど） ・ 専門科目の知識・技能を活かしたスポーツに関する探究活動や課題解決を推進 ・ 部活動の時間を十分に確保できるような柔軟な教育課程を編成
ii	芸術文化の幅広い創作活動を通して、豊かな創造性と表現力を持つ芸術家やクリエイター（音楽・映像・アニメ・デザインなど）人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性の高い教員や外部指導員による「深い学び」を実践 ・ 生徒の運営による地域公開イベントを開催（演劇・音楽など） ・ 専門科目の知識・技能を活かした芸術文化に関する探究活動や課題解決を推進 ・ 部活動の時間を十分に確保できるような柔軟な教育課程を編成
iii	データの分析・解析や情報技術の活用を通して、課題解決能力と新しい価値観を生み出す力を有するデジタル人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内大学等と連携したプログラミングやデータ分析に関する学習を実施 ・ データサイエンスやプログラミングの実践的な学習を充実 ・ eスポーツを通じたICTリテラシーや問題解決能力を育成
iv	「商業科」の学びを取り入れ、ビジネスに関する基礎的な知識や技術を身に付け、多角的な視点から新しいビジネスを創造できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報や会計、ビジネスに関する選択科目を開設 ・ 専門機関と連携した金融・経済に関する教育プログラムを実施 ・ 商品開発やアントレプレナーシップの育成など社会と結びついた実践的な学習を充実
v	「家庭科」の学びを取り入れ、福祉マインドを持ち、よりよい社会づくりのために、主体的に地域の人々の生活を支える人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食物、被服、保育、福祉に関する基礎的な選択科目を開設 ・ 保育所、福祉施設等での実習を充実 ・ 地域の人々との交流や他校の専門学科と連携し、地域課題を解決する取組みを推進

(2) 第1期校の具体像(案)

- ・未来探求ハイスクールは、部活動などを理由に県外高校へ進学する生徒の増加、県立高校の志願倍率の低下などの状況を踏まえ、県立高校の更なる魅力化を図るため、普通系学科の科目に加え、スポーツや職業系専門科目等から「学習内容を選択できる仕組み」がある学校とする。また、自分に合ったペースで学習することができるよう「余白の時間」を持つことができる学校とする。
- ・このため、①多様な科目を開設できる教育環境(学科構成、施設設備等)、②柔軟な教育課程の編成、③充実した部活動(スポーツ、芸術)、④誰一人取り残されない教育、の視点から具体像を描く。



- ・上記の2つのタイプの未来探求ハイスクールを、県東部と県西部に1校ずつ設置する。(計4校設置)

(タイプ1)

得意を生かした専門的な学びを通して 未来を切り拓く力を育む学校

《身に付けられる資質や能力》

- ・自らの目標に向かって、学び続ける姿勢
- ・専門分野の深い知識・技術・実践的能力
- ・「強み」を生かして社会をよりよくできる力

《取組み例》 ※今後の各校の学校づくりの検討の中で更に具体化していく

・「専門分野×社会課題」

専門分野の知識や技術を活用した探究活動により、社会課題の解決に生かす力を育成する。学びの成果を社会に発信するため、地域公開イベントの開催にも取り組む。

ex. 各専門分野（スポーツ、芸術、情報、商業、家庭など）の視点からまちおこしプロジェクトを提案する。生徒が企画・運営する「まちフェス」を開催する。

・「専門分野×AI・データサイエンス」

AI・データサイエンスの活用機会の増大に対応した情報教育の充実を図る。

ex. XR・メタバース空間での販売実習、スポーツ分野におけるAI・データサイエンスの活用による戦術分析などを行う。AR（拡張現実）により課題解決のシミュレーションを行う。

・より専門性の高い学びを実践するため、外部人材（企業、大学等）を活用する。

ex. プロのスポーツ選手や芸術家との交流、地元企業やYouTuber等とコラボした企画・開発を行う。

・卒業に必要な単位数の見直しにより「余白の時間」を創出し、大学等と連携したより専門的な学びや部活動に活用する。

ex. 週に1～4日は午前授業（4時間）のみとし、午後は大学や専門学校での専門的な学習や部活動などに取り組む。

・スポーツ及び文化・芸術等の分野において、高い成果が期待できる部活動を強化指定部とし、部活動に打ち込める環境を整備する。（指導体制の充実、施設・設備の整備、部活動の時間を十分に確保できるような柔軟な教育課程の編成）

ex. トレーナーや栄養士等の派遣によるサポート体制を構築する。プロクラブ等との連携により、第一線の指導を継続的に受けられる環境を整備する。



(タイプ2)



多様な学びを通じ「なりたい自分」を見つけ 未来を切り拓く力を育む学校



《身に付けられる資質や能力》

- ・ 自分自身の興味関心や適性を理解し、進路目標を描くことができる力
- ・ 進路目標に向け、自分のペースで着実に学習活動等に取り組むことができる力
- ・ 自分自身の個性を「強み」とし、共生社会をデザインできる力

《取組み例》 ※今後の各校の学校づくりの検討の中で更に具体化していく

- ・ 学校外とも連携し、多様な職業観を養うことで「やりたいこと」、「なりたい自分」を見つけることができるキャリア教育を充実する。
- ・ 自分自身の適性や進路目標に合わせて「多様な科目から興味関心や適性に合った学習内容を選択できる」仕組みを導入する。
- ・ 分野の枠を超えた学びにより、生徒同士の交流や新たな気づきを生み出す機会をつくる。
ex. 興味関心が異なる仲間と協力して学校の魅力を発信する「学校フェス」を企画・運営する。
- ・ 「基礎学力の定着」や「発展的な学び」など多様な学習ニーズ、個々の習熟度に対応した個別最適な学習環境を整備する。
- ・ 卒業に必要な単位数の見直しにより「余白の時間」を創出し、学校外（大学の授業受講、地域貢献活動など）での体験的な活動を充実する。
ex. 週に1～4日は午前授業（4時間）のみとし、午後は大学や専門学校での専門的な学習や地域貢献活動、部活動などに取り組む。
- ・ SC、SSW、日本語指導員などの配置を充実させ、個に応じた手厚いサポートで生徒の自信を育む学びを支援する。
ex. 放課後等の時間を活用した外部人材（教員志望の大学生、NPO法人、教員OBなど）による学習支援を行う。
教室以外の居場所づくりや専門人材による個別相談を実施する。